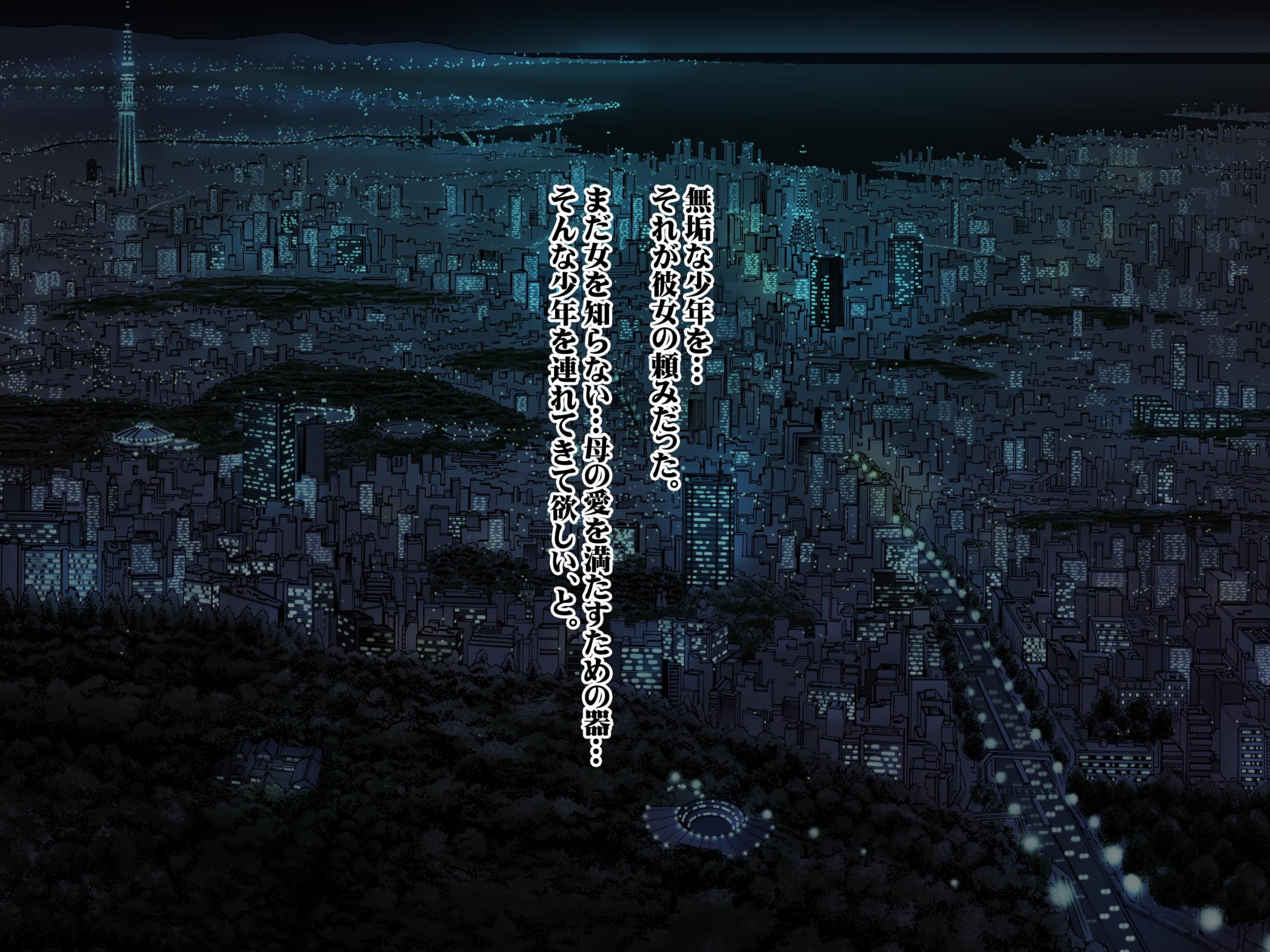




第一章
【呜呜】



無垢な少年を……
それが彼女の頼みだった。

まだ女を知らない……母の愛を満たすための器……
そんな少年を連れてきて欲しい、と。

「童貞少年なんて星の数ほど居るけど…
誰でも良いって訳にはいかないしなあ」

人ならざる少女は、眼下を無数にひしめきあう
人間たちを感覚で物色する。

「精気の純度が高く、キャパシティも多い…
そんな御馳走な男の子…」



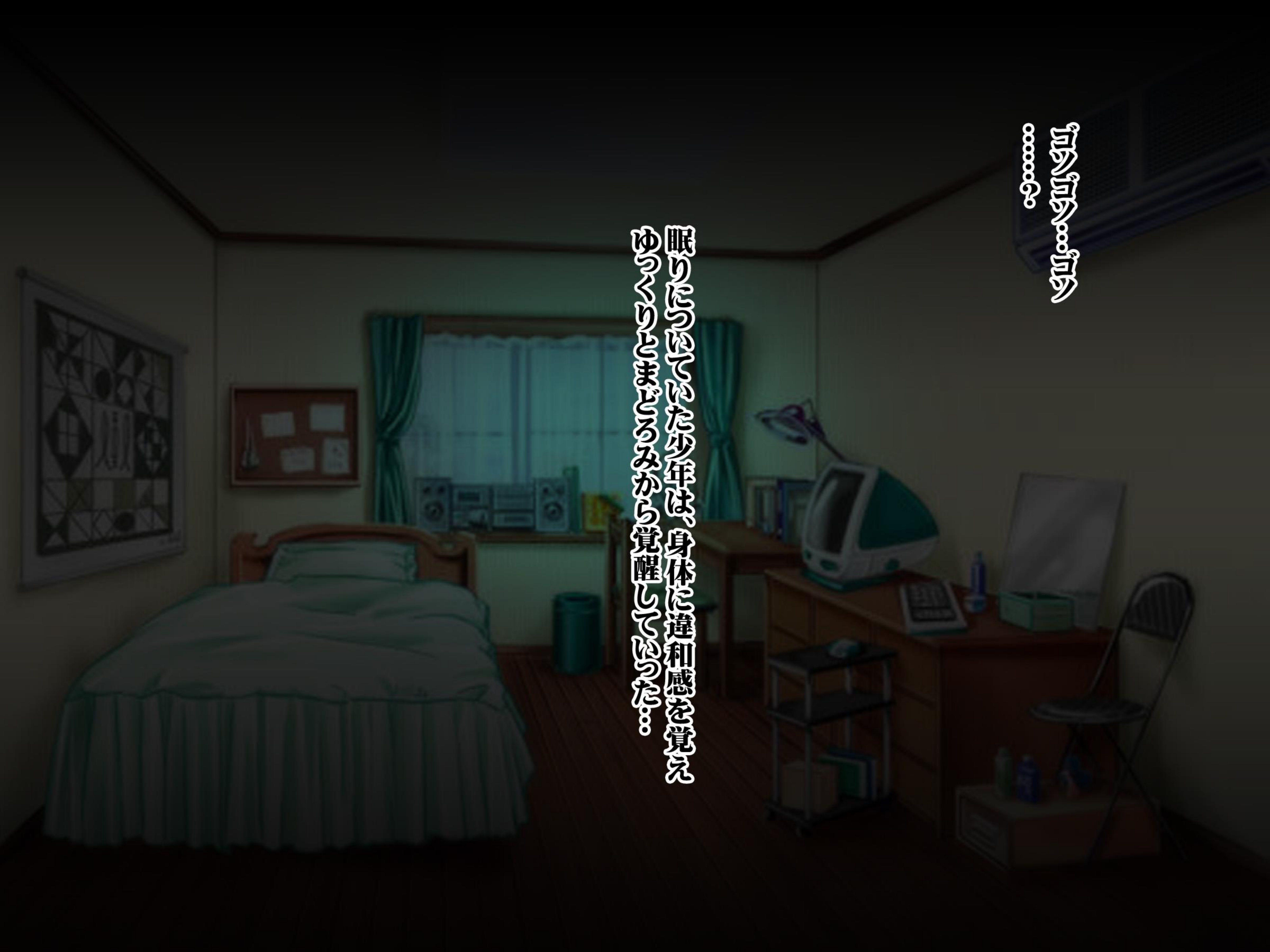
お目当てを探し当て、少女は闇の中翻る。

「…あっちの方に見いつけた♡」




~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

眠りだっていた少年は、身体に違和感を覚え  
ゆっくりとまどろみから覚醒していった。。





「!?」

「へへへ…起きた？」

「まだ夜だけどおはようー☆」

「お お姉さん誰…!?」

少年は、頭から角 背中から翼を  
生やした少女を目の当たりにして  
目を白黒させていた。





「今夜はキミをお迎えに来たの。  
人生に満足してる？  
悩みとかない？」

リリムは、少年の控えめなペニスを  
慈しむように握り、やさしい笑顔に向けた。

「あ　あつう…ぼ　僕は…」

「私たちならあ…  
キミの身も心も  
満たしてあげられるよ♡」

リリムの瞳が怪しく光る。





困惑する少年から理性を奪い、従順にさせる  
悪魔の視線だった。

「お  
お姉さん……」

「あは☆  
おちんちん――一気にカチカチになったね♪  
かわいく」





「ほちあ……し……し……」

「あ……あ……」

「こんな風に女の子におちんちん  
シゴかれたことはあ？」

「ない……です……」

「だよね☆」

「あ 先っぽから」

「ヌルヌルしたの出てきたよお」

初対面の女性に、性器を弄ばれる。  
羞恥からくる抵抗や困惑の意識はすでにない。



ニ／＼♡

ニ／＼♡

シゴ♡





あぁ♡

ひく

ひびく

「あああっ…」

亀頭に寄せられる未知の感覚に  
少年は腰が砕けていた。

「あは…カウパーおいしい♪」





リリムの舌が、カリを攻める。  
裏筋を攻める。  
尿道口を攻め立てる。

「あ  
あ  
あつ…だめ…う」

「びくびく震えて…  
今にも暴発しちやいそう…♡」



「童貞のまままで……って依頼だったけど……  
……フェラならだいたいじよぶだよね☆」

「お お姉ちゃん……も……も……」

「熱うい……キミのおちんちん好きかもお」

リリムは、愛おしそうに亀頭にキスをし  
頬ずりしてペニスを弄ぶ。

ちゅ、ちゅ、ちゅ

ちゅ、ちゅ、ちゅ

ーん、

ぎゅんぎゅん

びん



「ほおら…出すならお回の中に♡」

「あああ…あつたかい…!」

先端を口に含んだまま、口内を唾液で満たし  
こぼこぼと亀頭を舌先で転がす。

そして唇をすぼめ、ペニスをしごきあげながら  
喉奥まで飲み込み、根本まで頬張る。

ちゅぽ

ちゅぽ

ちゅぽ♡





「ぽろぽろぽろぽろ」

ぽろぽろ

ぽろぽろ

ぽろぽろ

ぽろ



女性経験の無い少年。  
リリムのテクニクに成すすべもなく  
あつという間に射精感が最高潮に達した。

「いいよお…出してえ♡」

「あああああう!!」

ちやほほ

ちやほほ

ちやほほ





びゅ

びゅ

びゅ

あ





ごくん…ごくん…  
喉を鳴らし、吐き出される自濁液を  
飲み込んでいくリリム。

「ぜえんぶ…吸い出してあげる」

射精しきった後も、力強く吸い上げ  
奥に残った精液を貪る。

「あ　あ　ああ　だめ」

「ガクガクしちやってかあわいい…」

ニム

ニム

ニム





「んっんっんっ… おあ♡」

「ごちそうさまあ♪  
美味しかったよ♡  
やっぱり初モノは濃厚…♪」

リリムは、わざとらしく艶かしく舌で  
口の周りを舐め取った。

「の、飲んでしまったの…?」

「そうだよ？」

あ、もしかしてえ  
お口の中にイッパイ  
溜まってるトコ見たかった？」





「そっとうっわけじや...」

リリムの、妖艶ながらも無邪気な笑顔に魅せられて  
少年は射精したばかりのペニスをぴくんと震わせた。

「もっとう気持ちよくなりたいの?」

「え あ の これは...その...」

「ふふ...ホントはこのままぐちゃぐちゃに  
犯してあげたいんだけどお...  
童貞のままですっていう  
オーダーなんだよねえ」

「...?」

「でもあたしもこのままじゃ  
チヨツトだけ不完全燃焼だから...」





「よっと…スマタしてあげる♪  
これで一緒に気持ちよくなる?」

「あ あああ…」

「ふふ…」

あもしかしておマンコ見るのも初めてだった?

「ほろ…」

「あは…」

じやあもつとよおく  
見ていいよ…」





「どう？」

人間のおマンコと  
おんなじ形だよ♡」

「やっぱり…人間じゃないの？」

くはぁ…♡

！！！！

！！！！

！！！！

「んでもそんなの今は関係ないよね♪  
初めて見た感想が欲しいなあ」

「す…凄く可愛い…エロくて…おまんこも…」





とろとろと濡れそぼつたりリムの女性器は  
艶かしく糸を引き、時折ポタポタとよだれを垂らすように  
愛液を少年のペニスを零していた。

「ふふ…はあ…ホントは今すぐココでおちんちん  
ずぽずぽしてあげたいんだけどお…」

「ねえ 想像してみて…  
この穴にい…おちんちん  
ナマで入れたら…  
どんな感じだと思う…？」

「あ あ あああ…」



少年のペニスがびくんと跳ね上がる。

「お回でもすぐにイッちゃったのにい……  
おマンコだったら何秒耐えられるかなあ？」

少女との性行為を想像して  
少年はゴクリと喉を鳴らす。

「ふふっ……でも今日はお預け♪  
そのかわり……入れてるみたい  
に気持ちいいスマタで  
どぴゅどぴゅ射精させてあげる……」









「くちやくちや音がしてえっちでしょ♪  
キミのカリがああ！  
クリトリスに擦れてあたしも気持ちいい♡」

「あ 熱い…ぬるぬる…ほんとに入ってる？」

「うん 入ってないよお  
でも根本からヌメヌメヒダで擦り上げられて  
キモチイイでしょ♪」

くちやくちや

くちやくちや

くちやくちや

「うん… 気持ちいい…」

「腰が浮いてきてる♪  
じやあこのままイカせちゃうね…  
足ピーンしてあたしに身を委ねて…」







リリムが素早く腰を前後させ、股間と掌に挟まれたペニスは  
あつけなく限界を向かえた。

「良いよ  
ぽろっ  
ぽろっ」

「ぐんぐん」





おっぱい

「あん…っぱい出たあ…」

「あああ…」

おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい



「もったいないよお…ホントは中にほしかった…  
まあ今は仕方ないかあ」

リリムは、ほとぼしり少年の身体に付着した  
二発目の精液を、指先でくちゅくちゅと弄り  
すくい取って舌の上で転がした。

「んふ…おいしい…」

連続で射精させられた少年は  
ぐったりと肩で息をしていた。





「さてと…：じゃあ行」っか」

リリムは満面の笑みで少年に手を差し出した。

「え…ふふふ…」

「悩みもなんにも無くなっちやうい」ところ…ふ」







リリムは少年の手を取ると、ふらりと空中に舞い上がり  
そのまま二人は闇に溶けて消えた。